

新課程中学校教科書に求められるものと

その運用について

ふじもと やすし
藤本 康

1. 教科書の役割からみた数研出版教科書の評価ポイント

今回の教科書改訂の柱となっているのが「主体的・対話的で深い学び」の取り扱いである。それは、数学科の目標「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する」ための教科書の役割ととらえることができる。この役割については教える側の教師と学ぶ側の生徒の両側面から評価していかねばならないが、学習者という視点で考えてみたい。

教科書の問い「……について考えよう」に対して、学習者の生徒は数学的な見方・考え方を働かせ、問題を自立的・協働的に解決する過程を通して解答を導くことになるが、よく見受けられるのが「どのような見方・考え方をすればよいのか」がわからず受け身の学習にとどまる生徒である。解法例を見聞きしなると思うが結局はその暗記になりがちで数学的に考える資質・能力が育たない。今回の数研出版教科書の記述は、どの題材においても生徒（と先生）の対話的な場面を通して学習者の「見方・考え方」が意識（可視化）されており、数学的な見方・考え方の「方」を学ぶことができる。初めはその模倣でよいから、紙面の生徒を自己に置き換えることにより教室内での協働場面で全員が参加できるようになることが期待される。また、対話の内容は考えるプロセスであり、下位目標行動の設定や達成の確認ができる。教師にとっても子どもの立場で学ぶべき事柄の要点を把握できる構成になっているから、教師が学習者となりうる教師用の学習参考書としても最適な教科書といえるであろう。

2. 数研出版教科書を使用した学習のあり方

新型コロナウイルスの影響で家庭学習を余儀なくされた児童・生徒が多かったが、教科書は先生がいなくても内容をある程度理解でき、自主的に学習できるものが望ましい。そのためにも数研出版教科書の対話的な学びを大切にしたい学習展開は有効である。一人でも自問自答できるし、対話場면을授業の予習で使用すると、各自が既習内容をふり返ったり問題解決への見通しをもって本時に臨むことできるので、1時間の授業がより活性化する。さらに「見方・考え方」を鍛えることで、それが生きた知識・技能の習得や学ぶ意欲にもつながっていく。

また、補充や考察、探究の学習にタブレット用のコンテンツや別冊「探究ノート」も用意されており、生徒一人一人の学習状況に応じてぜひ活用したい。教科書の内容・紙面構成については、基礎・基本的事項の習得から発展までバランスよくわかりやすく記述されているが、ページ数の増加への危惧の声もある。内容増ではなく充実されたのであり、教科書で考えるプロセスを学ぶことを主眼とすることで、数研出版教科書を使う一層の効果が期待できるのである。

（真和中学校・高等学校）